

と考え、最低限生活が行えるサービスをしていく。町民ができない事業・事務を自治体が行うわけだから、住民が行財政改革というものをしっかり認識して、どう運営し守り維持して発展させていくのかということを考えてもらわなければならない。

職員の仕事ミスと責任の取らせ方

荒木篤司議員

税金を担当していた職員が、名前の入力ミスで、町民に多大な迷惑をかけたことに対する執行の受けとめ方は、組織の問題として処分を決めたようだが、本当にそうだろうか。仮に組織体制に問題があるとするれば、他からもミスが出てきてもおかしくないが、それがないという。だとすれば、担当職員個人の仕事に対する姿勢の問題で、資質の問題である。にもかかわらず、連帯責任にすり替え、言葉だけの再発

防止では職員全体の士気低下につながると思うがいかがか。

高薄町長

ミスはすべて役場全体にかかわることから、新たな気持ちで事務の執行にあたるべきだと訓示し、総点検を行って改善すべきところは改善するように指示してきた。単純なミスではあったものの、責任は役場全体で受け止め、責任について取ることにした。組織の改善策も検討していく。

町内小・中学校に いじめはないか

荒木篤司議員

清水の教育委員会は、以前はいじめはないと言っていたが、文部科学省の定義変更で存在すると答弁するようになった。それは、官僚答弁で、いじめを受けていた人たちにどうして何ら変わらないことであるから、私には教育委員会、特に教育長の自己保身と

しかうつらない。同じことを同じ人から、これまではいじめではなかったが、今日からはいじめですと言いついて、本当に信頼される教育行政ができることは私には思えない。いかがか。

三澤教育委員長

教育委員会の公式の見解として、いじめはあると認識している。いじめに関する基本的な考え方やその対応については、各学校等と連携を密にして取り組んできた。今後も、学校現場の実態や保護者の意見などに耳を傾けて、子供側に立った教育行政を展開していく。

町民が望む理想の職員像をめざすために

安田 薫議員

職員の減少に伴い、今まで以上に職員一人ひとりの資質と能力の向上が求められている。理想の職員像を「自己啓発と切磋琢磨を積み重ね町民の役に立

つ職員」とした人材育成を本方針を一刻も早くつくることではないか。人材育成の柱として職員研修の充実のほか、人事評価や昇任試験といった人材管理が必要となってくるが、考えはないか。

高薄町長

「やる気のある職員頑張った職員」が報われる人事評価制度や昇任試験制度により、組織の活性化を図ってもらいたい。今後、特に管理職の資質が要求されるので、ぜひ昇任試験制度の導入について望むがいかがか。

高薄町長

職員の能力向上を図っていくためには、自身の自己啓発をはじめとし、職場内研修や職場外研修の充実に一層目を向けていく必要がある。

人事評価制度及び昇任試験制度の導入についても議論をしているところ

で、自己の申告制度、希望降格制度、人事の異動ロケーションを現在計画している。

AEDを使った救命講習会の実施体制

安田 薫議員

自動体外式除細動器(AED)が数多く配置されたAEDを使用した救命講習会の積極的な実施体制と町民にAEDの存在を周知徹底されているかを伺う。

小・中学校にはいづれ配置されるのか。少しでも早く設置してもらいたい。

高薄町長

AEDは、本年4月から設置し、職員を対象にして普通救急救命講習を実施した。町民を対象とした講習会は、6月より毎月1回第2日曜日に実施をしている。受講者の募集について

では、毎月広報しみずお知らせ版に載せている。小・中学校に設置するAEDは、日本赤十字社を通して一括購入し、本日届いたので早速配置したい。

土地開発公社の先行取得用地の買戻し

中島里司議員

土地の先行取得については、具体的な土地利用を定め取得すべきである。平成5年から12年の間に購入した5万3092平方メートルについては、まだ構想図すらない状況であり、土地取得の必要性があつたとは思えない。公社に土地の購入の話が持ち込まれたからこのことであるが、既に町の財政状況が下降しはじめていた時に、なぜ購入しなければならなかったのか。その当時の判断を町長は今のよう

高薄町長

平成5年・9年・12年に



AEDの講習会は毎月1回行われている